

# 第4回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 実施報告書

**参加対象：市民公募**

日 時：令和7年11月15日（土）午後2時から  
会 場：小樽市勤労女性センター大ホール  
（ウイングベイ小樽1番街4階）

**小樽市議会**

## 第4回小樽市議会「市民と議員の懇談会」

日時：令和7年11月15日（土）午後2時

場所：勤労女性センター大ホール

（ウイングベイ小樽1番街4階）

### 次 第

- 1 開会
- 2 議長挨拶
- 3 議員紹介（名簿配布による）
- 4 意見交換・懇談（ワークショップ形式）
- 5 ワークショップ結果発表
- 6 閉会

## 懇談会の様子



1 班



2 班



3 班



4 班



結果発表

# 小樽市議会議員名簿

写真
議席番号 氏名
所属党派
所属常任委員会

## 【議長】



22鈴木 喜明  
自由民主党

## 【副議長】



11秋元 智恵  
公明党  
建設常任委員会

## 【写真撮影】



2白川 貴城  
公明党  
総務常任委員会

(正) は委員長、  
(副) は副委員長

## 3班



1新井田 邦弘  
公明党  
経済常任委員会



4酒井 隆裕  
日本共産党  
厚生常任委員会(副)



9橋本 布美絵  
公明党  
厚生常任委員会



21前田 清貴  
みらい  
建設常任委員会(正)



25佐々木 秩  
立憲・市民連合  
総務常任委員会

## 1班



6小貫 元  
日本共産党  
経済常任委員会



7平戸 理史  
みらい  
経済常任委員会



8白濱 聡  
みらい  
建設常任委員会



12松岩 一輝  
自由民主党  
総務常任委員会(正)



18高橋 龍  
立憲・市民連合  
厚生常任委員会(正)

## 4班



3松井 真美子  
日本共産党  
総務常任委員会



14佐藤 奈緒美  
自由民主党  
厚生常任委員会



15中村 吉宏  
自由民主党  
経済常任委員会(副)



16下兼 薫  
立憲・市民連合  
経済常任委員会



17面野 大輔  
立憲・市民連合  
建設常任委員会(副)

## 2班



5高野 さくら  
日本共産党  
建設常任委員会



10横尾 英司  
公明党  
経済常任委員会(正)



13中鉢 淳二  
自由民主党  
建設常任委員会



19小池 二郎  
みらい  
総務常任委員会(副)



20中村 岩雄  
みらい  
厚生常任委員会

## 第4回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年11月15日 午後2時

開催場所：勤労女性センター

参加者：公募市民（参加者数19名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり  
「できたらいいね、こんな教育環境」

### 【ワークショップの概要】

ワークショップ：1班 ワークショップ会場：大ホール	議員：5名 市民：4名+小学生1名
ワークショップで出た意見ややり取り	
<b>総務</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然を生かした、小樽らしい教育が必要だと考える。</li><li>・給食費の無償化を行ってほしい。</li><li>・不登校児童・生徒の教育の機会を確保することが求められる。文科省の「学びの多様化学校」などの取組も参考にできると思う。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1387004.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1387004.htm</a> (参考 文科省)</li><li>・公設民営のフリースクールが欲しい。</li><li>・多国籍交流・国際交流の機会を設けて、共生に向けた教育を望む。</li><li>・保護者が希望する任意の日に学校を参観できる（毎日が参観日）のような開かれた学校を目指すべき。</li><li>・スクールカウンセラーの増員をしてほしい。児童生徒だけでなく、保護者のケアも必要である。</li><li>・GIGAスクールのタブレットの活用ができていない。必要ないのではないか。</li><li>・年齢や個々の発達特性に合わせて、包括的性教育を推進すべき。</li></ul>	
<b>総務・経済</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・起業家教育や企業訪問など、いろいろな職業に触れる場の拡充が望まれる。</li></ul>	
<b>厚生</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・プレコンセプションケア・両親教育の拡充が必要。</li><li>・放課後児童クラブで、もっとアクティブに遊べるような形にしてほしい。</li><li>・学校・家庭以外の第三の居場所作りを行ってほしい。</li><li>・体験格差を埋める取組を行ってほしい。義務教育外の体験の多寡は、所得に左右されるため。</li></ul>	

#### ワークショップの結果発表内容

いただいた御意見を下記のように大きく三つにグルーピングした。

- ・ 自然体験や国際交流、起業家教育など**学びと体験の多様化**。
- ・ サードプレイスや放課後児童クラブの充実など、**地域とつながる環境づくり**。
- ・ いじめ対応や不登校支援、性教育、給食費無償化など、**誰も取り残さない教育**。

上記を踏まえ、地域と連携しながら多様な体験を広げ、子どもが安心して挑戦できる教育環境を作ることが重要であるとする。

## 第4回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年11月15日 午後2時

開催場所：勤労女性センター

参加者：公募市民（参加者数19名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

「できたらいいね、地域との関わり」

### 【ワークショップの概要】

ワークショップ：2班	議員：5名
ワークショップ会場：大ホール	市民：4名
ワークショップで出た意見ややり取り	
・住宅事情について 地域によってファミリー用の物件が少なく高い。 空き家は多くあるので、空き家に使える補助金があると活用しやすいのではないかと。 市でリノベーションをしてみてもどうか。	
・子どもの居場所について 学童保育後や夏休みの期間、不登校になった子どもの居場所を作ってほしい。 こども食堂の情報を市、若しくは学校から発信してほしい。	
・学校行事について 部活動の外部指導者を充実させてほしい。 文化やスポーツについてのバックアップ体制が弱い。 観劇や音楽鑑賞などの機会を多く設けてほしい。 物価高の影響か、修学旅行の交通機関がバスからJRに変わった。今までどおりの対応をしてほしい。 学校の行事が縮小傾向にある。	
・施設について 朝里や銭函方面に公共施設が少ない。まちづくりセンターや図書館、自習室、室内で遊べるスペースを設けてほしい。 朝里ダムの湖畔園地のロケーションが良いので、もう少し整備してほしい。	
・地域との関わりについて 町内会活動や民生委員の活動や地域のお祭りなど、やりがいがあり参加してみると楽しい。	
ワークショップの結果発表内容	
ハード、ソフト両面での子育て環境の整備がまだ十分とは言えない。公共施設が偏在化しており、公園などに魅力が感じられずニーズを捉えられていない。	

## 第4回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年11月15日 午後2時

開催場所：勤労女性センター

参加者：公募市民（参加者数19名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

「できたらいいね、こんな教育環境」

### 【ワークショップの概要】

ワークショップ：3班	議員：5名
ワークショップ会場：大ホール	市民：5名
ワークショップで出た意見ややり取り	
1. ママたちの交流、リフレッシュできる所が欲しい ママがリラックスできることは大事。孤立化で鬱の心配も。 先輩ママとのおしゃべりの中で子育てのアドバイスをもらえる。 子どもを連れてお金がかからず気軽に行き来できる場所が小樽には少ない。市としてそんな場所の提供や紹介の情報発信を望む。	
2. 親子、子どもが参加して楽しめるイベント、スペース、公園を増やして 子どもは各種体験、体を動かすこと大事。 市民が企画したイベント（マルシェ、キッズパーク）などに補助金などで応援を。また、たくさん参加してもらうために周知の協力も。 親子の集いの場も増やしてほしい。冬に雪で遊べる屋外スペースも。 未就学児しか入れない施設がある。兄弟を連れていてもみんなで遊ばせられず別れるしかないのは不便。何とかしてほしい。 新総合体育館にプールは要らない。	
3. 学校関係 部活動の存続を。 スキー学習を増やしてほしい。[減っている理由は議員から説明。一方で廃止の要望もあることも説明] 学習習熟度別学級編成や1クラス1学級担任制、地域別の学区制を柔軟にできないか。 専門分野に特化した（専門）学校（IT、ハンター養成など）を、廃校を使って開設できないか。 問題は、養成しても卒業後小樽を離れてしまうことが心配。	

#### 4. 子どもたちの居場所

病児保育が小樽市では現在 1 か所のみ。

ベビーシッター制度、子どもの預け先、24 時間保育も考えて。

現在のファミリーサポート制度には使いやすさに課題あり。

小中高生にも勉強できるフリースペースが欲しい。[ウイングベイ小樽 4 階に開設したことをお知らせするが、知らなかった。情報周知に課題?]

#### 5. 市民への情報発信、周知について

以上の話合いの中で、イベント告知や参加者募集、施設紹介などの情報が意外と伝わっていないことが話題に。

デジタルでの配信、SNS、アプリでの配信や連絡は（例えば学校のテトルなど）文字情報が多すぎて、特に貼付ファイルなどは見ない。

改めて、紙媒体の発信は貴重なので、並行して使用してほしい。

#### ワークショップの結果発表内容

教育環境整備は子どもを増やして、この課題の分母を大きくすることが大事。分母の母(ぼ)はママのこと。子どものためにもママが健康、元気なことが基本である。ママがリフレッシュでき、子育ての情報交換できる場所が必要だが、小樽市には少ない。また、それ以外にも、子どもたちの居場所なども用意すべき。よって、市としてそんな場所の提供や紹介の情報発信を望む。

市民への情報発信、周知について、デジタルに頼りすぎると伝わらない現状もあるので、改めて、紙媒体の発信は貴重なので、並行して使用してほしい。

## 第4回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年11月15日 午後2時

開催場所：勤労女性センター

参加者：公募市民（参加者数19名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

「できたらいいね、地域との関わり」

### 【ワークショップの概要】

ワークショップ：4班	議員：5名
ワークショップ会場：大ホール	市民：5名
ワークショップで出た意見ややり取り	
① 発達障害のある児童への小樽市の対応が札幌などと違う。原則月2回となっている訪問支援が5回になったり2回になったりする（札幌は23日？）。7月から受給者証が出ないと言われた。知識のある先生が少ないと感じる。 大人になった時に自立できるような、子どもの発達の流れを酌んでの支援が欲しい。	
② 小学校のうちからスポーツに力を入れてほしい。ミニバスをできる体育館が少ない。試合は余市や倶知安まで行く。小樽の（特に小学校の）体育館で試合ができるとよい。小樽で練習できないので、札幌に出て行ってしまおう。 子どもを大事にしない市政だと、みんなよそに行ってしまう。	
③ 天狗山スキー場で成人までシーズン1回無料など、小樽の自然を生かしてスキー、水泳環境を豊かに。	
④ 郷土文化を学ぶ教育カリキュラム、体験などができたら良い。	
⑤ 余っている農家の野菜を廃棄するのではなく、給食に活用できないか。（給食に小樽産を）	
⑥ 給食の量が少ない。	
⑦ 小中学校周辺（花園小学校・菁園中学校）での除雪を優先し、歩道の確保を。（車道を歩くのは危険）	
⑧ 花園地域の道路がボコボコで手入れされていない所が多くある。（私道を市の道路にできないか）	
⑨ 小1から路線バスに乗せるのはハードルが高い。スクールバスがあると安心。（少人数の校区内より校区外へとなると、スクールバスがあっても乗せてもらえない）	
⑩ 入船十字街から上（上部）片側に街灯がなく、真っ暗で心配。→（入船六三？）町会に伝える。	
⑪ 商工会議所では、漁業体験など小樽を好きになってもらうイベントを年3回企画している。	

その他（付箋）

就学援助制度の範囲拡大、新総合体育館はいつ新しくなるのか、オーガニック給食、観光通りの除雪をどうにかしてほしい、水遊びができ安心して遊べる公園、坂の街なので移動が大変、共働き家庭が増えていて町内会活動がなかなかできないのではないか、出産ができる病院（市立病院に！）、医療介護以外の業種の求人が少ない、屋外・屋内の遊び場を増やしてほしい、回覧板の電子版を出してほしい

ワークショップの結果発表内容

- ・障害を持つ児童などへの支援は、その子どもの発達の流れを酌んでの支援を望む。
- ・小学校のうちから、スポーツに親しめる環境を考えてほしい。（手頃に試合ができる体育館。スキーや水泳など小樽の自然を生かした取組など）
- ・通学路の除雪を最優先し、歩道の安全確保を。

## 第4回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 結果報告書

### 【総務常任委員会】

質 問	答 弁
<p>・給食費の無償化を行ってほしい。</p>	<p>給食の無償化についてですが、小学校においては、現在、国において無償化を実施すると承知しており、国からの詳細を待っている状況であります。なお、無償化に係る支援が十分でないときは、その取扱いについて市長部局と協議していくことになると考えております。また、中学校の給食の無償化においては、国は小学校無償化の後、速やかに実施するとしておりますが、実施時期等は定まっておりません。仮にそれまでの間、市単独で中学校分を無償化するとなると、多額の財源を要するため、市単独での無償化実現は困難であると考えております。</p>

## 第4回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 結果報告書

### 【厚生常任委員会】

質 問	答 弁
<p>・義務教育の場以外の体験の多寡は世帯収入に左右されることから、子どもの体験格差を埋める取組を行ってほしい。 体験・経験の格差の是正に対しての考え方を問う。</p>	<p>家庭の状況による体験や経験の格差により、学びや将来の成長に影響を与える可能性があるものと理解している。 今は、その支援の一環で、おたる子ども未来塾として、様々な事情を持つ子どもの学習や生活相談のサポートを行っている。今後も多様な機会の確保に努めたい。</p>
<p>・遊びの場について、未就学児しか入れない子ども向けの公共施設があり、兄弟を連れていてもみんなで遊ばせられないのは不便という御意見に対してどう考えるか。</p>	<p>ウイングベイ小樽1番街にオープンした「おやこの集いの場」では、対象を未就学児としているが、その兄弟なども利用できるような対応とさせていただいている。</p>
<p>・主に中高生が対象かと思うが、勉強できるフリースペースなどの情報の周知をできていないとの御意見があった。この点について、現状の取組と、情報周知に対する考えを問う。</p>	<p>同じくウイングベイ小樽1番街に学生向けの自習室をオープンしており、広報やSNSを通じて周知をしている。口コミでも利用が増えているが、今後も更なる周知に努めたい。</p>

## 第4回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 結果報告書

### 【建設常任委員会】

質 問	答 弁
<p>住宅事情について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家を有効活用するための補助制度は。</li>   <li>・空き家を市がリノベーションして活用してはどうか。</li> </ul> <p>施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝里ダム湖畔園地のロケーションが良いので、更なる整備を進めてほしい。</li>   <li>・小中学校周辺での除雪を優先し、歩道確保を。</li>   <li>・花園地域の道路がボコボコで手入れされていない所が多くある。 (私道を市の道路にできないか)</li> </ul>	<p>住宅エコリフォーム助成制度や移住・定住促進住宅取得費等補助金を空き家、中古住宅の有効活用の補助制度として行っている。</p> <p>所有権の移転について、購入するか寄附を受けるか、建物の管理費用の検討、リノベーション後の用途の検討など、幾つかの課題がある。空き家を修繕し、若い世代に使ってもらうような形で、定住を促進していくといったことについて検討を始めている。</p> <p>新たな整備方針の検討予定はないが、引き続き施設の修繕や補修を含めた適切な維持管理に努める。</p> <p>市内の 41 路線を主要な通学路と位置付け、3学期の始業式に間に合うよう、12月下旬から計画的に除排雪作業を開始する。</p> <p>(私道を市へ寄附する際には幾つかの条件がある。) 私道の維持管理は原則所有者が行うものであるが、通行人等に対する生命などに重大な恐れがあり、緊急対策が必要な場合には民法上の緊急避難措置によって対応することもできる。</p>

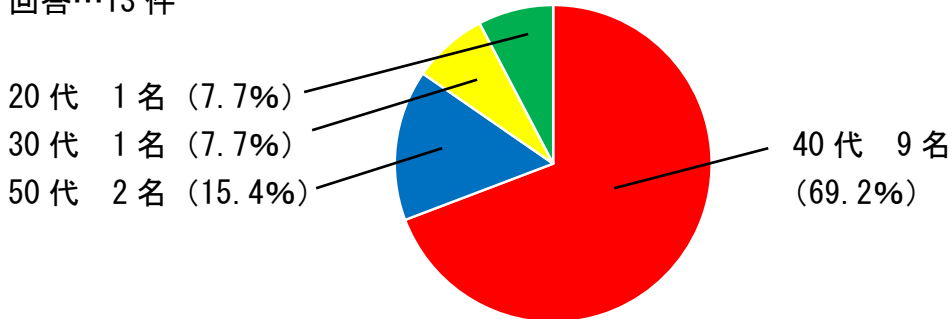
第4回市民と議員の懇談会に参加された  
皆様へのアンケート  
～結果～

参加者 18名 アンケート回収 13名（回答率 72%）

## 第4回「市民と議員の懇談会」アンケート結果

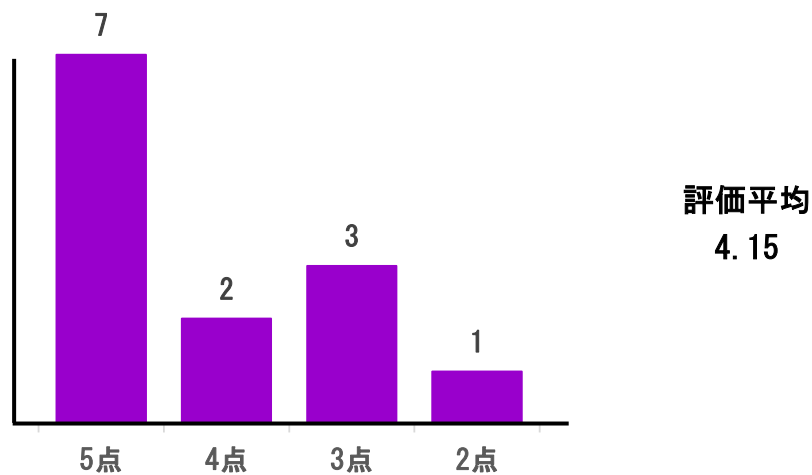
### 問1：年代について

回答…13件



### 問2-1：開催日時の評価（択一式）

回答…13件

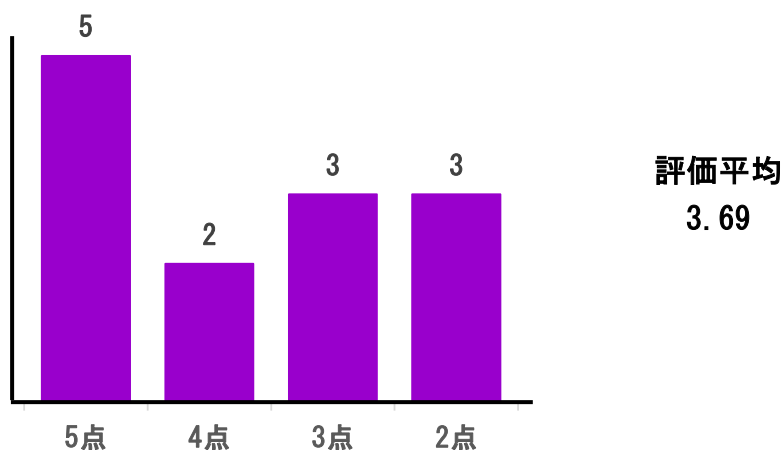


### 問2-2：開催日時についてのご意見をお聞かせください。（記述式）

- ・土曜日開催は仕事の調整が付きやすく良かった。
- ・時間が少し短いと感じた。
- ・良かったです。
- ・時間配分は適切だった。
- ・土曜日で助かりました。
- ・もう少し余裕のある時間帯にしてほしい。
- ・短すぎずちょうど良かった。
- ・ゆっくり話せて良かった。
- ・土曜日は有り難い。

問3-1：開催場所についての評価（択一式）

回答…13件

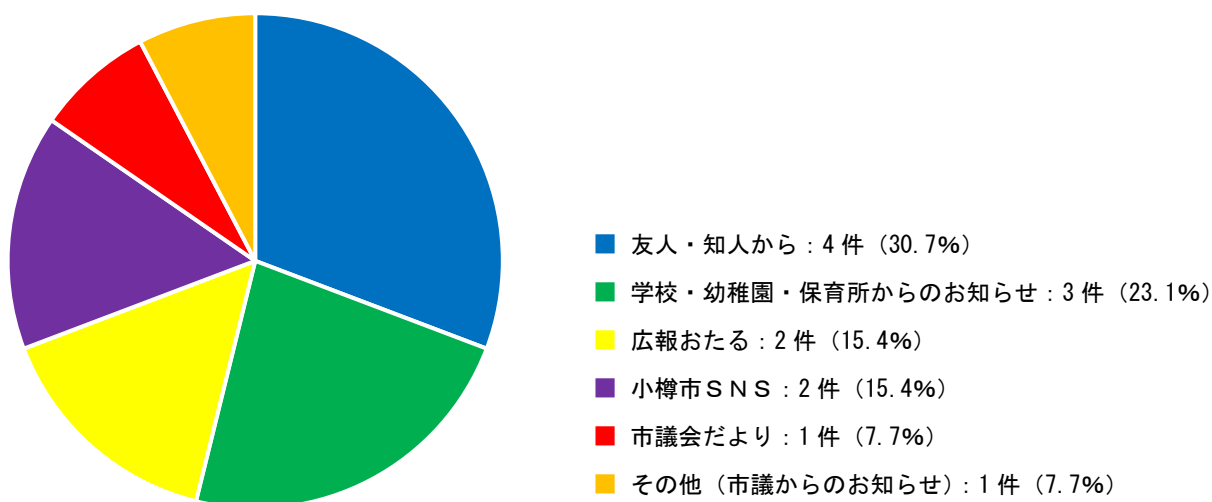


問3-2：開催場所についてのご意見をお聞かせください。（記述式）

- ・ 駐車場が広く、託児もあり参加しやすかった。
- ・ 会場が寒く、場所が分かりにくかった。
- ・ 他班の声が混ざって話が聞きづらかった。
- ・ アクセスは良かったが、館内が少し寒かった。
- ・ 駐車場が広くて便利だった。
- ・ 託児スペースがあるのは有り難い。
- ・ 会場は広くて良かった。
- ・ 駐車場が使いやすかった。
- ・ 駐車場の心配もなく、買い物もして帰れるので良いと思います。

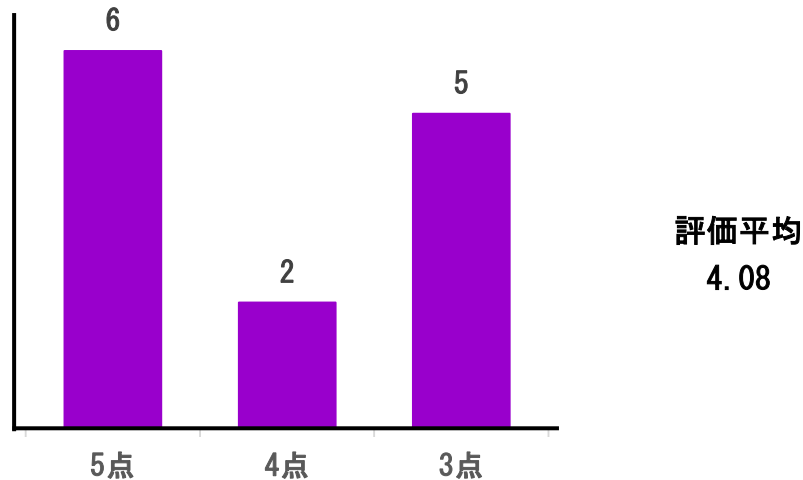
問4：市民と議員の懇談会の開催を何で知りましたか。（択一式）

回答…13件



### 問5-1：ワークショップについての評価（択一式）

回答…13件



### 問5-2：ワークショップについてのご意見をお聞かせください。（記述式）

- ・市議会は何かを決めるところだと思います。それなのに、できたらいいな？というのは稚拙では。また、若い議員さんは私たちの意見に具体的な取組を教えてくださいましたが、そうではない方は静かであった。メモを取らない人もいた。
- ・声が大きい人の話す時間が長く内容からも脱線していた。1週間前にでも意見交換の表題を連絡し、表題についての意見を数個考えてきてくださいと連絡しておけば、他の方々の意見もたくさん出る可能性が高く、当日考える時間の短縮になる。
- ・グループのお題が、少し難しかった。子育て世代は、教育・文化環境に関心が高いと思うので、地域との関わりのお題は意見が出しづらかった。
- ・「教育環境」がテーマの班だったが、出た意見としては「地域」寄りだった。最初に仮テーマとして「地域との関わり／教育環境」を掲げておく分には問題ないが、申込みの時点で、参加者にどのようなことを訴えたいか書いてもらい、それに合わせて班決めをする、若しくはテーマ自体の練り直しや、表現を変更した方が良いのではないかと。
- ・いろいろな意見を聞ける場でとても良かった。参加者の話は聞いたが、議員の意見も聞いてみたかった。更に時間が必要。テーマは当日まで分からず最初は突然与えられたテーマに戸惑った。
- ・市議の方も入っていたので良かった。
- ・話しやすい雰囲気をしていただき意見交換ができた。
- ・参加された議員の方の市民の意見を聴こうという姿勢を感じた。
- ・熱心な意見が飛び交い興味深く参加できた。進行役がうまく聞き出し、まとめていた。

問6：議会に関する情報をどのように手に入れていますか。また、どのようにすれば議会の情報を知ることができると思いますか。（記述式）

- ・ Instagram や X で若い議員の発信を見ている。
- ・ 広報と道新。興味がない人に知ってもらうためには、北海道の情報番組を通じて伝える方法が最善ではないか。
- ・ 市議会だより。媒体が何であれ、結局は議会に関心があるかどうかの問題。SNS を活用したところで、興味がなければ見ない。小中学生のうちから、市政に関心を持つような授業をしていく必要があるのではないかと（例：奈井江町）。
- ・ 議会だよりをたまに見ている。広報おたるの一部に載せていただければより見やすい。
- ・ 今なら SNS が良い。
- ・ 市議会だより
- ・ 各小学校で、議会に近いものを開催する。議会にも小樽にも興味を持ってもらうきっかけになると思う。
- ・ 広報おたるなど
- ・ 市議会だよりや YouTube など
- ・ SNS や広報おたる

問7：子育て・教育についての課題をお聞かせください。（記述式）

- ・ 小樽市には問題が山積しているにもかかわらず、市議たちの姿勢が楽観的であることに驚きを禁じ得ない。もっと熱意を持って取り組むべきである。特に、議長や副議長が議論に加わらず、議長が携帯電話を操作していたのは不誠実さを感じる。  
→議長と副議長が議論に加わらなかったのは、ワークショップ各班を回り、全体の様子を把握する役割であるためでした。また、議長が携帯電話を操作していたのは、各班で議論されていた用語を調べるためでした。誤解を招いてしまい、申し訳ありませんでした。
- ・ 予算や子どもの数が限られている現状では、広く浅い対策を講じるよりも、特定の分野を絞り込み、確実にやり遂げる対策を立てるべきである。
- ・ 札幌市や神戸市の手厚い医療費助成や通学補助と比較すると、小樽市の遅れにがく然とする。財源の制約は承知しているが「子育て世帯を応援している街」という施策が必要。
- ・ 誰一人として取り残されることなく、多様な考え方や価値観を受け入れてくれる小樽市であることを強く願う。
- ・ 子どもたちが安心して過ごせる居場所として、児童館の設置を強く求める。
- ・ 市内に高学力の高校がない現状は、深刻な問題である。また、導入されている「ミライシード」は性能が悪く、指書きによる漢字練習などは非効率である。子どもたちのストレスを軽減するためにも、使い勝手を早急に改善すべき。
- ・ 地元の企業も子どもの未来を真剣に考えるべきである。観光客を優先するあまり、身近な天狗山でのスキー学習が制限される現状は是正が必要である。行政が主導し、子どもた

ちが地元を離れたくなくなるような環境を整えるべき。

- ・放課後の居場所（児童クラブ・児童館）の質と量：現在の児童クラブは「安全な預かり」に偏り、活動内容が静的かつ閉鎖的。「子どもの成長を促す場」という視点に欠ける。体育館や外遊びのできる環境が不足している。他都市と比較しても児童館の設置数（人口10万人に対し2か所）は著しく少なく、量的確保は急務。単なる「預かり」から「育ち」へと認識を転換し、予算配分を強化して、遊びの質を向上させるプレーパークのような取組を早急を実施すべきである。

- ・多様な学びの機会の確保と空き校舎の活用：学校再編によって生じた空き校舎を放置せず、多様なニーズに応える「学びの多様化学校」など、新たな学びの場を創設する挑戦を推進すべき。

- ・行政姿勢の転換と未来への投資：人口減少という危機的状況において、子育て・教育分野こそが未来への最大の投資であり慣例の踏襲を続けること自体が小樽市の将来にとって最大のリスクである。知恵と創意工夫を集め、大胆な施策に挑戦できる行政姿勢へと早急に転換し、教育環境を抜本的にアップデートすることを強く要望する。

- ・ママの情報交換・子育ての悩みを共有できて気軽に参加できる場があると良い。

#### 問8：その他、今回の懇談会や議会に対するご意見、ご提言（記述式）

- ・若い議員と自由に話せる時間が不足しており残念。

- ・懇談会中に居眠りをしている市議がいた。

→当日は体調不良で目を閉じる場面があったとのことでした。誤解を招いてしまい、申し訳ありませんでした。

- ・有意義な懇談会であり、次回も参加したい。小樽を良くしたい人が増えるよう議員を応援しており、貴重な時間に感謝している。

- ・少人数のグループで議員とじっくり話せた点は良かった。最後は無理にまとめず、各意見の報告にとどめる形でも良かったのではないかと。

- ・発言を促す際に「母親・父親として」という属性を限定した問い掛けは、自由な回答を妨げるおそれがあると感じた。

- ・議員が熱心に話を聴く雰囲気は良かったが、スーツ姿は緊張を招くため、堅苦しくない服装でも良い。このような対話の場を各所でできたら良い。今後は市役所の実務担当者とも対話できる機会を望む。

- ・良い機会であった。

- ・「意見を否定しない」「笑顔で」というルールを強要されたり、福祉の話をしている中、学校の話へ切り替えられたりした。

→強要したつもりはありませんでしたが、ワークショップの進行上、不快な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。

- ・できない理由を探すのではなく、前に進む姿勢を見せてほしい。子どもたちに誇れる、憧れられる姿を期待する。

- ・意見を拡散させた後にグルーピングして収束させる形式は、貴重な声を形式的にまとめすぎている。単なる数の集約ではなく、質的な深掘りが必要。
- ・ワークショップの設計で、重要性の高いテーマについては、結論を急がず、集中的に深掘りする時間を確保すべき。
- ・結論を目的とする「議論」ではなく、価値観を深く理解し合う「対話」に重点を置くべきである。それにより市民の主体性を育み、実効性の高い施策へとつなげるべきである。
- ・時代が変わっても、共通する子育ての悩みがあることが分かりました。長い子育て生活が終了に近づき、孫を育てる娘、お嫁さんへも助言などしていけたらと思う良いきっかけになった。